



深谷中だより



NO. 216

令和6年 2月 2日

横浜市立深谷中学校

校長 榎田 卓央

備えあれば、憂（うれ）いなし

令和6年は、元日に能登半島で大地震が起こり、翌日にはその被災地へ救援物資を運ぼうとしていた海上保安庁機と民間航空機が羽田空港で衝突する事故が起きるなど、新年早々、驚かされる出来事が立て続けにありました。この二つの出来事で被害に遭った方々にお見舞いを申し上げ、犠牲となった方々のご冥福をお祈りいたします。

今回の大地震で被害が出た地域では学校再開が遅れていて、数百人の中学生が家族から離れた所に二次避難して集団生活し、授業を受けています。これらの報道に接して、他人事とは思えない気持ちになりました。特に高校受験を控えている現地の中学3年生は、家族のもとを離れて慣れない環境の中で不安な気持ちの中で受験勉強に取り組んでいます。一日も早い復旧と復興を願うばかりです。また1月28日朝には、東京湾を震源とするやや大きな地震起き、ここ横浜市でも大きく揺れました。私たちも、いつ起こるか分からない地震等の天災に備えることの大切さをあらためて実感しました。

さて、生徒のみなさんは、『花の兄』という言葉を知っていますか？『花兄（かけい）』と書くこともあり、俳句の季語にもなっている言葉です。花のお兄さんということは、他の花より先んじているということ、つまり、まだ他の花が咲かない寒いうちから咲き始める梅のことを指します。梅は、日本の代表的な花と言われる桜と同じように夏の暑い時期に花芽（かが）ができ、寒い時期を休眠という状態で越してから開花する植物ですが、梅は桜より休眠が浅く短いために咲くのが早いと考えられます。昔の人は、経験則として梅が圧倒的に早く咲くことを体感して、この言葉を使っていたといわれています。

深谷中の敷地内でも、年が明けて早々に梅が開花しました。ほころぶ梅の花からは、ほんのりと甘い香りがします。梅の時期が過ぎると、いよいよ桜の出番です。深谷中には、ソメイヨシノの桜に加えて地域の方々も愛でに来る八重桜も多く植えられています。毎年、この時期になると桜の咲く季節が待ち遠しくなります。そうです、3年生の進路が決まって一人ひとりが大きな花を咲かせるその時が近づいています。天災にも自身の進路選択にも『備えあれば憂いなし』としましょう。



令和6年 深谷中学校 人権標語

「またね」といえる日常を